



四年三組の林田教諭が産休に入りました。その代替教員が新しく入ってくることはおそらくありません。現在、中島教頭が担任代行として学級に入っています。林田教諭も産休に入ることが非常に心苦しい様子でした。新しい命を無事に迎えるための大事な休みなのに、何だか悪いと思わせてしまうような今の状況が残念でなりません。「後のことは大丈夫だから」と、しっかりと伝えていきました。

今年度は昨年度まで以上に、多くの学校が人間的に厳しい状況にありました。本校もその例に漏れません。そんな中、職員同士が互いを大事にして助け合ってきました。林田教諭が産休に入る旨を全職員に伝えたと、すでに人間的に厳しい中にあっても祝福等のプラスの反応こそあれ、マイナスの空気は感じられませんでした。人として当たり前の対応かもしれないませんが、そんな先生方に助けられていることを改めて感じました。

助けられていると言え、子どもたちにも助けられています。根拠のない私の肌感覚に過ぎませんが、今年の西南小の子どもたちは昨年より落ち着いていたなど感じています。もちろん四月から何もなかったわけではありませんが、何かあったとしても子どもたちは素直に指導を受け入れ、反省する姿がほとんどでした。同様に保護者の方々にも、学校の指導にご理解をいただけてきました。そうした土壌があることが、私たち学校職員には大変ありがたいのです。

しかし、担任の動向によって子どもたちが不安になって落ち着かなくなるのはあたりまえです。林田教諭の最終勤務日の放課後、四年三組の少年二人と出会いました。その時二人は、私をジーンツと見つめながら、「林田先生が来週からいないのでさびしい」と、つぶやきました。「元気な赤ちゃんが産まれるよう祈ってね。」と言うと、その場ですぐ拝みはじめの優しい二人でした。こうした子どもたちの優しさに救われることのありがたさが身に沁みます。四年三組の授業を見に行くと、中島教頭が理科の授業をしていました。楽しそうに、和気あいあいとして、それでいて熱心に取り組んでいました。子どもたちの中では林田教諭から中島教頭に単に切り替わっただけではなく、林田教諭とのこれまでの信頼、

関係があったからこそスムーズに切り替えられているのだらうと思います。後ろ髪を引かれながら学校を後にした担任に心配をかけてはいけない、自分たちでしっかりと頑張らなくてはならないという気持ちです。担任がいなくても、またどんな先生が来ようとも担任の思いを受けて頑張ろうとする関係が、担任と児童生徒の理想的な信頼関係だと思います。そういう私たちの思いを受け止めてくれる土壌がこの学校にあります。

二〇二二年十二月に新聞等の報道では、熊本県の教員不足は全国でも高い状況だとありました。具体的には熊本県は小学校の教員不足率はワースト2位、中学校はワースト1位でした。この報道はショックでした。教員不足に関しては、現在も多くの報道がなされていますが、年々厳しさは増しているような気がします。少なくとも改善はしていません。ペーパーティーチャー講習会、教員の魅力発信PR動画（昨年度本校から提出した動画はまだ掲載されていません）など、県も対策をしています。すが芳しくないように思います。ともあれ、本校にとつて特に今年は、子どもたちや保護者・地域の方々に支えられてやってこれた感があります。感謝です。

最後に、どなたか、またはお知り合いに、教員免許をお持ちで、教員をやってもいいかなあなんて、ほんの少しだけでも考えておられる方はいらっしやいませんか。もしいらっしやれば、ぜひ、ご一報願います。

令和8年度採用
熊本県公立学校

教員募集

子供たちの未来という物語
一緒に紡いでいこう。
ここ、熊本で。

（写真）熊本市立西谷南小学校 校長 中島 宏和
（写真）熊本市立西谷南小学校 教諭 田中 宏和

©2010 熊本県くまモン